



平成30年10月期 決算短信(日本基準)(連結)

平成30年12月6日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー
 コード番号 7640 URL <http://www.topculture.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 秀雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 遠海 武則 TEL 025-232-0008
 定時株主総会開催予定日 平成31年1月18日 有価証券報告書提出予定日 平成31年1月21日

配当支払開始予定日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年10月期の連結業績(平成29年11月1日～平成30年10月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年10月期	32,257	3.2	1,132		1,199		1,384	
29年10月期	31,257	1.5	307	58.7	257	63.2	2,456	

(注) 包括利益 30年10月期 1,386百万円 (57.0%) 29年10月期 2,434百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
30年10月期	114.56	114.32	36.0	4.9	3.5
29年10月期	203.24	202.83	41.7	1.1	1.0

(参考) 持分法投資損益 30年10月期 百万円 29年10月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年10月期	24,387	3,136	12.7	256.88
29年10月期	24,213	4,611	18.9	379.07

(参考) 自己資本 30年10月期 3,104百万円 29年10月期 4,580百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
30年10月期	98	940	2,120	3,437
29年10月期	1,182	171	325	2,159

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
29年10月期		7.50		7.50	15.00	181	7.4	3.1
30年10月期		0.00		0.00	0.00	0		
31年10月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

3. 平成31年10月期の連結業績予想(平成30年11月1日～平成31年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,000	3.7	76		51		8		0.66
通期	32,800	1.7	264		213		48		3.97

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年10月期	12,688,000 株	29年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	30年10月期	603,482 株	29年10月期	603,482 株
期中平均株式数	30年10月期	12,084,518 株	29年10月期	12,084,518 株

(参考)個別業績の概要

1. 平成30年10月期の個別業績(平成29年11月1日～平成30年10月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年10月期	31,482	3.6	1,205		1,201		1,386	
29年10月期	30,397	1.7	224	66.3	249	64.4	2,460	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
30年10月期	114.76	114.53
29年10月期	203.64	203.23

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年10月期	24,358	3,124	12.8	257.84
29年10月期	24,146	4,603	19.0	380.23

(参考) 自己資本 30年10月期 3,115百万円 29年10月期 4,594百万円

2. 平成31年10月期の個別業績予想(平成30年11月1日～平成31年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,600	3.9	71		30		2.48
通期	32,100	2.0	200		40		3.31

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信(添付資料)2ページ「1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	5
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	5
(4) 今後の見通し	6
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	9
(1) 会社の経営の基本方針	9
(2) 目標とする経営指標	9
(3) 中長期的な会社の経営戦略	9
(4) 会社の対処すべき課題	9
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	10
5. 連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	18
(連結貸借対照表関係)	20
(連結損益計算書関係)	21
(連結包括利益計算書関係)	22
(連結株主資本等変動計算書関係)	22
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	24
(リース取引関係)	24
(金融商品関係)	25
(有価証券関係)	29
(デリバティブ取引関係)	30
(退職給付関係)	30
(ストック・オプション等関係)	32
(税効果会計関係)	35
(企業結合等関係)	35
(資産除去債務関係)	36
(賃貸等不動産関係)	36
(セグメント情報等)	37
(関連当事者情報)	40
(1株当たり情報)	41
(重要な後発事象)	41
6. その他	42
(1) 役員の変動	42

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

①当連結会計年度の業績概況

連結

(単位：百万円)

	平成29年10月期	平成30年10月期	前年比
売上高	31,257	32,257	103.2%
営業利益又は営業損失(△)	307	△1,132	△367.6%
経常利益又は経常損失(△)	257	△1,199	△465.5%
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△2,456	△1,384	56.4%

単体

(単位：百万円)

	平成29年10月期	平成30年10月期	前年比
売上高	30,397	31,482	103.6%
営業利益又は営業損失(△)	224	△1,205	△537.8%
経常利益又は経常損失(△)	249	△1,201	△481.5%
当期純損失(△)	△2,460	△1,386	56.4%

当連結会計年度の店舗状況

出店	2店(蔦屋書店部門)
閉店	1店(蔦屋書店部門)
譲受	7店(蔦屋書店部門)
譲渡	1店(蔦屋書店部門)
期末店舗数	81(蔦屋書店部門 78、古本市場トップブックス 3) 都県別内訳： 新潟27、長野14、神奈川6、東京14、群馬6、埼玉6、静岡2、茨城2、 宮城2、岩手2

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気基調が継続しているものの、海外の経済状況や経済の不確実性から先行きは不透明な状況が続いております。当社グループを取り巻く事業環境につきましても、消費者の将来不安による生活防衛志向、スマートフォンの普及や、動画や音楽配信サービスの充実による時間消費方法の多様化など、様々な要因により厳しい状況で推移しております。

このような環境の中、当社グループでは、お客様の時間を消費する場所として当社店舗を選択いただけるよう、体験型・滞在型の店舗づくりを進めてまいりました。大型複合店舗の広い売場に、書籍、映画、音楽、ゲームといった「日常的エンターテインメント」を集約し、さらにBook&Cafeスタイルの導入や、特撰雑貨・文具など販売品目の拡大・充実、そしてネイルサロンや美容室などの新たなテナントの誘致により、多様なライフスタイルに対応し、店舗へご来店いただくことの価値をさらに高めてまいりました。出店面では、平成29年11月に宮城県仙台市に蔦屋書店アクロスプラザ富沢西店、平成30年3月に茨城県龍ケ崎市に蔦屋書店龍ケ崎店、以上2店舗を出店いたしました。また、平成30年4月及び6月に、株式会社TSUTAYAより東日本地区の7店舗を譲り受けました。

一方、経営資産の効率化及び財務体質の向上を進めるため、平成30年10月に1店舗の営業を終了し、当該店舗の固定資産を売却いたしました。また、1店舗を他社に譲渡いたしました。この結果、当連結会計年度末のグループ合計店舗数は81店舗となりました。当社は大型店の新規出店の拡大と、それを支える既存店店舗網の強化に取り組んでまいりましたが、今般、当社は、店舗の譲受・譲渡を通じて、従来の新規出店に比べて出店コストの低減化を図りつつ、より効率的な店舗網の拡大を目指してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高32,257百万円(前年同期比103.2%)、営業損失1,132百万円(前年同期は営業利益307百万円)、経常損失1,199百万円(前年同期は経常利益257百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失1,384百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失2,456百万円)となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、新店・譲受店がけん引し、書籍、特撰雑貨・文具が売上を伸ばしました。また、人気タイトルの発売により、販売用CD、ゲーム・リサイクルの販売も好調でした。結果、同事業全体の売上高前年同期比は103.6%（既存店前年比94.5%）となりました。

利益面につきましては、販管費率が0.6ポイント下降したものの、レンタル仕入原価の増加を中心とした売上原価の上昇により、連結売上総利益が前年同期比12.3ポイント下降したため、営業損失は1,132百万円（前年同期は営業利益307百万円）、経常損失は1,199百万円（前年同期は経常利益257百万円）となりました。

また、固定資産の売却及び店舗譲渡に伴う特別利益を628百万円、固定資産に対する減損損失を特別損失として365百万円計上した結果、税金等調整前当期純損失は936百万円（前年同期は税金等調整前当期純損失2,290百万円）となりました。また、繰延税金資産を415百万円取り崩し、法人税等調整額に計上したことで、法人税等が増加し、結果、親会社株主に帰属する当期純損失は1,384百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失2,456百万円）となりました。

【蔦屋書店事業】

同事業の売上高は前年比3.6%増加し、31,482百万円となりました。主力商品の売上高前年比は、書籍1.7%増（既存店5.8%減）、特撰雑貨・文具10.3%増（既存店1.6%減）、レンタル1.5%減（既存店11.1%減）、販売用CD1.3%増（既存店6.2%減）、ゲーム・リサイクル0.9%増（既存店11.8%減）、販売用DVD0.5%減（既存店8.0%減）、賃貸不動産収入70.2%増（既存店23.0%増）となりました。

【その他】

同事業の売上高は前年比9.8%減少し、785百万円となりました。中古買取販売事業は、売上高前年比86.6%となりました。また、スポーツ関連事業は、売上高前年比99.0%となりました。

なお、当社の連結子会社である株式会社ワールスタッフサービスにて、新たに訪問看護事業を行うこととなりました。脳とこころの訪問看護ステーションを平成30年9月に開業し、精神疾患、認知症を中心とした患者さんを対象に訪問看護を行っております。こちらは事業を立ち上げて間もないため、売上高は軽微となっております。

②販売状況

当連結会計年度における販売等の状況は次のとおりです。

1. 商品別売上状況

区 分		前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)		前年同期比 (%)
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	
蔦屋書店事業	書籍	16,096,948	51.5	16,366,432	50.7	101.7
	特撰雑貨・文具	4,101,089	13.1	4,521,905	14.0	110.3
	レンタル	4,413,838	14.1	4,349,412	13.5	98.5
	販売用CD	1,559,862	5.0	1,579,893	4.9	101.3
	ゲーム・リサイクル	1,455,041	4.7	1,467,732	4.5	100.9
	販売用DVD	1,004,436	3.2	999,267	3.1	99.5
	賃貸不動産収入	232,206	0.7	395,320	1.2	170.2
	その他	1,533,761	4.9	1,802,045	5.6	117.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	30,397,184	97.2	31,482,008	97.6	103.6
その他	外部顧客に対する売上高	859,837	2.8	775,709	2.4	90.2
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	10,448	0.0	9,711	0.0	92.9
	計	870,285	2.8	785,420	2.4	90.2
合計		31,267,470	100.0	32,267,428	100.0	103.2

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

3 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード他であります。

4 前連結会計年度まで、蔦屋書店事業の「その他」に含めて計上しておりました賃貸不動産収入の計上については、当連結会計年度より「賃貸不動産収入」として計上することといたしました。なお、これに合わせて前連結会計年度の売上高を組み替えております。

(2) 当期の財政状態の概況

(連結財政状態)

(単位：百万円)

	平成29年10月期	平成30年10月期	増減
総資産	24,213	24,387	174
純資産	4,611	3,136	△1,475
自己資本比率	18.9%	12.7%	-6.2%
1株当たり純資産	379円07銭	256円88銭	△122円19銭

(連結キャッシュ・フロー)

(単位：百万円)

	平成29年10月期	平成30年10月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,182	98	△1,083
投資活動によるキャッシュ・フロー	△171	△940	△769
財務活動によるキャッシュ・フロー	△325	2,120	2,446
現金及び現金同等物の増減額	685	1,278	593
現金及び現金同等物の期末残高	2,159	3,437	1,278

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

	平成26年10月期	平成27年10月期	平成28年10月期	平成29年10月期	平成30年10月期
自己資本比率	27.8	25.2	29.3	18.9	12.7
時価ベースの自己資本比率	24.4	21.1	22.8	23.8	18.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	25.2	3.9	8.3	12.4	154.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ	3.0	19.8	8.7	7.6	0.7

(注)1. 各指標の算出基準は以下のとおりです。

自己資本比率	$(\text{自己資本}) \div (\text{総資産})$
時価ベースの自己資本比率	$(\text{株式時価総額}) \div (\text{総資産})$
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	$(\text{有利子負債}) \div (\text{キャッシュ・フロー})$
インタレスト・カバレッジ・レシオ	$(\text{営業キャッシュ・フロー}) \div (\text{利払い})$

- 各指標はいずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
- 株式時価総額は、(期末株価終値) × (期末発行済株式総数(自己株式控除後))により計算しております。
- 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を払っている全ての負債を対象にしております。
- キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを用いております。
- 利払いは連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を用いております。

連結財政状態

総資産につきましては、前年度比174百万円増加し、24,387百万円となりました。これは主に、以下の増減によるものです。

増加：現金及び預金1,278百万円、商品1,027百万円、建物及び構築物209百万円、敷金及び保証金105百万円
 減少：リース資産1,851百万円、繰延税金資産415百万円、未収入金273百万円

負債につきましては、前年度比1,649百万円増加し、21,250百万円となりました。これは主に以下の増減によるものです。

増加：短期借入金2,400百万円、1年内返済を含む長期借入金1,443百万円
 減少：リース債務2,143百万円、未払金143百万円

純資産につきましては、3,136百万円（前年度比1,475百万円減少）となりました。

連結キャッシュ・フローの状態

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ1,278百万円増加し、3,437百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、98百万円（前年度比1,083百万円資金減）となりました。これは主に、減損損失が2,183百万円、減価償却費が218百万円、それぞれ減少した一方で、前連結会計年度に比べて税金等調整前当期純利益が1,354百万円、仕入債務の増減額が575百万円、店舗譲渡益が408百万円、たな卸資産の増減額が370百万円、固定資産売却益が219百万円、それぞれ増加したことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は940百万円（前年度比769百万円資金減）となりました。これは主に、店舗譲受による支出が1,990百万円、有形固定資産の売却による収入が1,100百万円、有形固定資産の取得による支出が307百万円、店舗譲渡による収入が147百万円、敷金及び保証金の差入による支出が115百万円、それぞれ増加した一方で、投資有価証券の売却による収入が202百万円減少したことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、2,120百万円（前年度比2,446百万円資金増）となりました。これは主に、短期借入金の純増減額が1,400百万円、長期借入れによる収入が1,160百万円、長期借入金の返済による支出が295百万円、それぞれ増加した一方で、リース債務の返済による支出が92百万円、配当金の支払額が90百万円、それぞれ減少したことによるものです。

(4) 今後の見通し

次期の見通しにつきましては、国内外の堅調な需要、企業収益の改善等により景気は緩やかな回復基調にありますが、深刻化する人手不足により今後経済活動が停滞する懸念が生じており、景気動向に不安が残る状況です。

このような状況の下、当社グループは本年度の最終赤字からの回復を目指します。商品面におきましては、新規の商品分野を開拓し、既存商品と複合した売場展開で新たな価値を創出して店舗の差別化を図ってまいります。

一方で、店舗の運営力・収益力の強化も必須と考えております。販管費率を改善するため、セルフレジの導入強化や店舗スタッフの業務効率の改善等により、店舗運営の抜本的な見直しを行います。また、BOOK&CAFÉの導入やライフスタイル提案型売場への転換、そして異業種テナントの誘致による相乗効果などにより、集客力・販売力を強化し、市場シェアの拡大を図ります。

以上により、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高32,800百万円（前年比101.7%）、経常利益213百万円（前年同期経常損失1,199百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益48百万円（前年同期親会社に帰属する当期純損失1,384百万円）と赤字からの脱却を予定しております。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けており、財務面の健全性を維持しつつ、安定的な配当を継続していくことを会社の基本方針としております。

しかしながら、当期につきましては当期純損失を1,386百万円計上する大変厳しい結果となり、誠に遺憾ではございますが、剰余金の配当を無配とさせていただくことといたしました。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 企業集団の状況

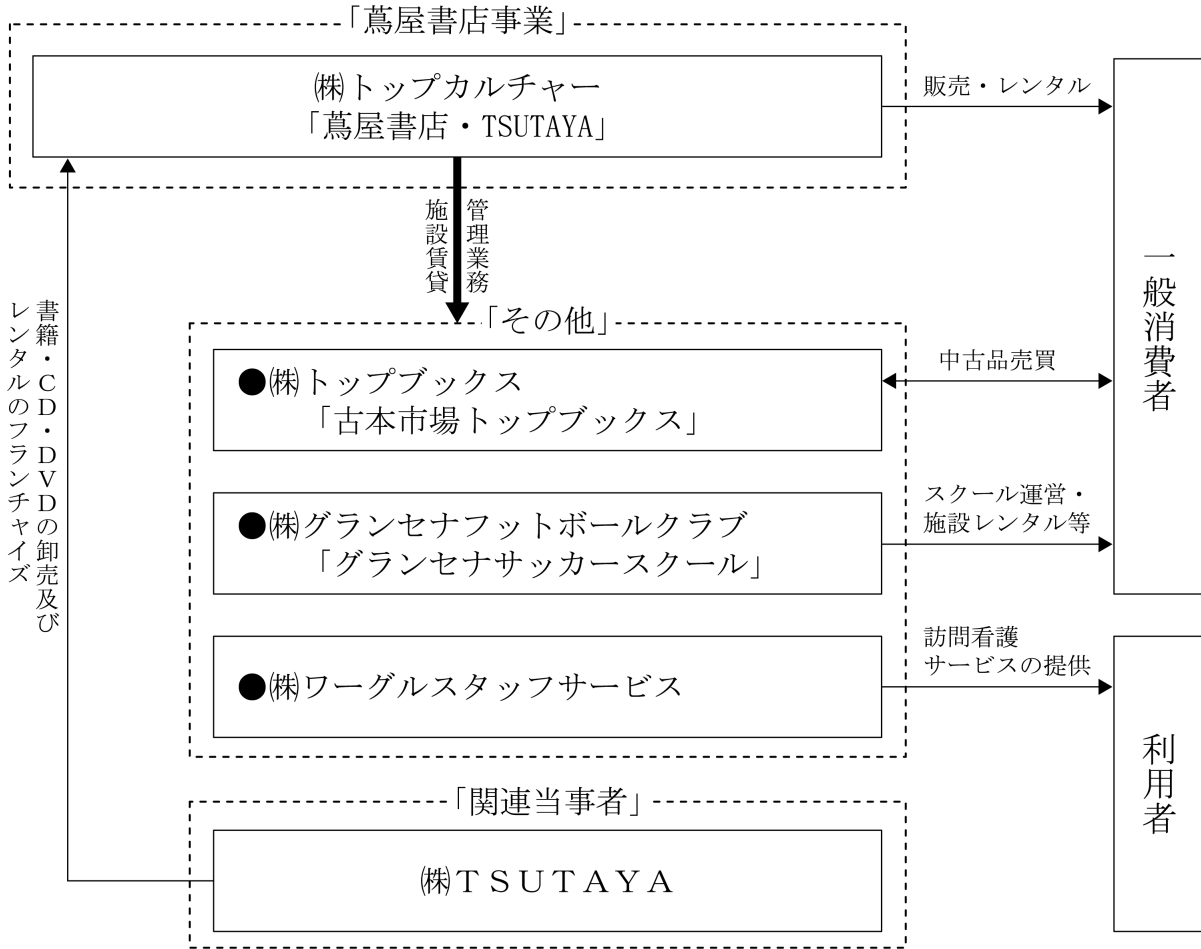
当社グループは、当社および子会社3社の4社で構成されております。

事業コンセプトに「日常的エンターテインメントの提供」（後述）を掲げ、地域社会に密着した、家族みんなで楽しめる「コミュニティのための場」の提供を理念に、小売店舗およびスポーツ関連施設の経営を行っております。

当社グループ各社の位置づけおよび主な業務は次のとおりです。

事業区分	事業の内容	会社名
蔦屋書店事業	書籍、文具、CD・DVD等の販売及びCD・DVD等のレンタルを主な事業内容とし、さらに各事業に関連するその他のサービス等を含め、日常生活に密着したエンターテインメントの提供を行う大型複合店舗を「蔦屋書店」を中心として展開しております。	(当社) ㈱トップカルチャー
その他	中古書籍・CD・DVD・ゲーム等の売買を主な事業内容としており、「古本市場トップブックス」の店舗展開を行っております。	(連結子会社) ㈱トップブックス
	サッカークラブ及びサッカースクールの運営並びにスポーツ施設の企画・経営等を事業内容とし、アマチュアリーグに所属する「グランセナ新潟フットボールクラブ」及び「グランセナサッカースクール」、「グランセナ新潟サッカースタジアム」の運営等を行っております。	(連結子会社) ㈱グランセナフットボールクラブ
	精神疾患・認知症を中心とした訪問看護事業を行っております。	(連結子会社) ㈱ワールグスタッフサービス

事業の系統図は、次のとおりです。



●：連結子会社

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは「商業を通じて、地域社会に信頼される誠実な企業でありたい。」という社是のもと、昭和61年に創業いたしました。翌62年に日本で初めて、それまで個別の専門店提供されていた書籍、文具、音楽、映像など身の回りのエンターテインメントの数々を一店舗に集約した大型複合小売店舗「蔦屋書店」を開店いたしました。当社グループは「日常的エンターテインメントの提供」(※)を事業コンセプトに、お客様にご愛顧いただける店舗作りを目指すと共に、情報技術を活用して徹底したローコストオペレーションに取り組み、業績の向上に取り組んでまいります。

※「日常的エンターテインメントの提供」とは、日常生活に欠かせない、身近で文化的な商品・情報・サービスを1つの空間に集約することで、お子様からご年配の方まで家族みんなで楽しめる「空間と時間」の提供を行うことを表しております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループの永続的な成長の源泉は、拡大のための投資を可能とする、高い収益力と健全な財務内容にあります。そのため当社では、売上総利益率と商品回転率の積であり、資産効率と収益性のバランス良い向上の指標である、交差比率の継続的な改善を目標としております。

交差比率＝売上総利益率×商品回転率

＝(売上総利益÷売上高)×(売上高÷商品在庫)

＝売上総利益÷商品在庫.....「単位当たりの在庫がどれだけの利益を上げたか」の指標

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、お客様の期待を上回る「心地よいコミュニティ空間の実現」を掲げ、一人でもご家族連れでもゆったりと快適に買物を楽しんでいただける店舗、地域コミュニティにとって必要とされる場としての店舗づくりを目指します。

当社グループの店舗は「日常的エンターテインメントに関する商品・情報・サービスを複合的に扱う複合店舗」という特長を持っていることから、その競合するサービスは、一般の小売店のみならずインターネットを含む通信販売やコンテンツ配信を始めとする国内外の小売・サービスなど大小多岐にわたっております。

こうした環境の中、当社グループの店舗にはこれまで以上に迅速な変化対応と付加価値の高いサービスの提供が求められております。この認識に立ち、当社グループは、競争環境への迅速・柔軟な対応を図りつつも、お客様に新たな価値をご提供する「ライフスタイル提案型」の複合店舗を開発してまいります。また、店内各所に贅沢に配置した書見席や、カフェと売場とを融合させた「BOOK&CAFE」スタイルの積極的導入、イベントスペースの活用などにより、「心地よいコミュニティ空間の実現」を追求いたします。

業容の拡大につきましては、中期目標として「グループ100店舗体制」の実現を掲げ、大型複合店舗の出店を継続してまいります。商品面におきましては、当社グループの中心顧客層であるファミリー層を中核として、幅広い年齢層が「生活を一層楽しむため」の情報発信を行うという視点から、既存の商品分野を超えた提案を行い、複合店舗ならではの魅力向上と一層の差別化に取り組めます。

(4) 会社の対処すべき課題

単品購入の検索性と利便性でオンライン通販に対抗することは困難であり、その影響は商品分野別に成立している所謂「業態店」(書店、文具店、ゲーム店など)の行き詰まりとなって現れております。このような環境でリアル店舗がその存在価値を発揮するのは、お客様を包み込む「心地よい空間」の創出であり、それを実現するためには、多彩な商品やサービスを統合した店舗を充実させていく必要があると考えております。

商品面におきましては、新規の商品分野を開拓し、既存商品と複合した売り場展開で新たな価値を創出して店舗の差別化を図ってまいります。

一方で、店舗の運営力・収益力の強化も必須と考えております。販管費率を改善するため、セルフレジの導入強化や店舗スタッフの業務効率の改善等により、店舗運営の抜本的な見直しを行います。また、BOOK&CAFE

の導入やライフスタイル提案型売場への転換、そして異業種テナントの誘致による相乗効果などにより、集客力・販売力を強化し、市場シェアの拡大を図ります。

4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っていないため、連結財務諸表の作成にあたり、日本基準を採用しております。

5. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,169,271	3,447,514
売掛金	242,635	280,559
商品	8,078,636	9,106,109
前払費用	296,509	337,511
繰延税金資産	52,167	—
未収入金	494,142	220,221
その他	44,168	25,221
貸倒引当金	△405	△404
流動資産合計	11,377,126	13,416,733
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,546,888	5,949,964
減価償却累計額	△3,576,461	△3,770,038
建物及び構築物(純額)	1,970,426	2,179,925
車両運搬具	28,499	28,499
減価償却累計額	△13,951	△18,782
車両運搬具(純額)	14,547	9,716
工具、器具及び備品	840,379	1,041,884
減価償却累計額	△639,869	△733,469
工具、器具及び備品(純額)	200,509	308,414
土地	1,423,759	1,423,759
リース資産	9,141,586	5,219,743
減価償却累計額	△4,232,072	△2,161,909
リース資産(純額)	4,909,514	3,057,834
建設仮勘定	36,000	—
有形固定資産合計	8,554,758	6,979,651
無形固定資産		
借地権	25,900	25,900
ソフトウェア	25,299	17,237
電話加入権	12,939	12,939
無形固定資産合計	64,138	56,076
投資その他の資産		
投資有価証券	11,974	10,500
繰延税金資産	363,428	—
敷金及び保証金	3,328,140	3,433,690
長期前払費用	379,081	356,583
その他	134,827	134,337
投資その他の資産合計	4,217,452	3,935,112
固定資産合計	12,836,349	10,970,840
資産合計	24,213,476	24,387,573

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,226,928	3,303,600
短期借入金	1,400,000	3,800,000
1年内返済予定の長期借入金	1,782,604	2,341,430
リース債務	1,796,586	524,611
未払法人税等	81,941	63,253
賞与引当金	65,000	60,000
未払金	684,219	540,890
その他	266,625	254,836
流動負債合計	9,303,904	10,888,622
固定負債		
長期借入金	4,561,560	5,445,975
リース債務	4,893,971	4,021,972
資産除去債務	496,792	528,058
長期前受収益	1,332	1,767
退職給付に係る負債	77,566	73,673
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期末払金	129,135	55,106
長期預り敷金保証金	74,418	172,767
固定負債合計	10,297,718	10,362,260
負債合計	19,601,622	21,250,883
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,691	2,303,598
利益剰余金	539,784	△935,201
自己株式	△270,028	△270,028
株主資本合計	4,580,817	3,105,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56	△1,484
その他の包括利益累計額合計	56	△1,484
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	22,730	24,186
純資産合計	4,611,853	3,136,690
負債純資産合計	24,213,476	24,387,573

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
売上高	31,257,022	32,257,717
売上原価	20,615,575	22,925,390
売上総利益	10,641,446	9,332,326
販売費及び一般管理費	10,333,498	10,464,468
営業利益又は営業損失(△)	307,948	△1,132,141
営業外収益		
受取利息	22,315	19,883
協賛金収入	30,986	29,246
原子力立地給付金	16,764	20,346
雑収入	33,261	17,023
営業外収益合計	103,328	86,499
営業外費用		
支払利息	153,658	153,459
営業外費用合計	153,658	153,459
経常利益又は経常損失(△)	257,617	△1,199,101
特別利益		
固定資産売却益	—	219,645
店舗譲渡益	—	408,589
特別利益合計	—	628,234
特別損失		
減損損失	2,548,490	365,363
特別損失合計	2,548,490	365,363
税金等調整前当期純損失(△)	△2,290,872	△936,229
法人税、住民税及び事業税	108,909	33,138
法人税等調整額	56,249	415,620
法人税等合計	165,159	448,759
当期純損失(△)	△2,456,031	△1,384,989
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	442	△636
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△2,456,474	△1,384,352

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
当期純損失(△)	△2,456,031	△1,384,989
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,525	△1,540
その他の包括利益合計	21,525	△1,540
包括利益	△2,434,506	△1,386,529
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△2,434,949	△1,385,892
非支配株主に係る包括利益	442	△636

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,007,370	2,303,691	3,177,526	△270,028	7,218,559
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△181,267	—	△181,267
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	—	—	△2,456,474	—	△2,456,474
連結子会社の増資によ る持分の増減	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	△2,637,741	—	△2,637,741
当期末残高	2,007,370	2,303,691	539,784	△270,028	4,580,817

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	△21,468	△21,468	8,249	22,287	7,227,627
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	—	△181,267
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	—	—	—	—	△2,456,474
連結子会社の増資によ る持分の増減	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	21,525	21,525	—	442	21,967
当期変動額合計	21,525	21,525	—	442	△2,615,773
当期末残高	56	56	8,249	22,730	4,611,853

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,007,370	2,303,691	539,784	△270,028	4,580,817
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△90,633	—	△90,633
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	—	—	△1,384,352	—	△1,384,352
連結子会社の増資による 持分の増減	—	△93	—	—	△93
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	△93	△1,474,986	—	△1,475,079
当期末残高	2,007,370	2,303,598	△935,201	△270,028	3,105,737

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	56	56	8,249	22,730	4,611,853
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	—	△90,633
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	—	—	—	—	△1,384,352
連結子会社の増資による 持分の増減	—	—	—	—	△93
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△1,540	△1,540	—	1,456	△84
当期変動額合計	△1,540	△1,540	—	1,456	△1,475,163
当期末残高	△1,484	△1,484	8,249	24,186	3,136,690

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失(△)	△2,290,872	△936,229
減価償却費	1,941,843	1,723,575
減損損失	2,548,490	365,363
固定資産売却損益(△は益)	—	△219,645
店舗譲渡益	—	△408,589
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	△1
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,000	△5,000
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3,930	△3,893
受取利息及び受取配当金	△22,372	△19,940
支払利息	153,658	153,459
売上債権の増減額(△は増加)	△21,736	△37,923
たな卸資産の増減額(△は増加)	△124,947	△495,848
仕入債務の増減額(△は減少)	△369,742	205,639
未払消費税等の増減額(△は減少)	5,092	117,074
長期前払費用の増減額(△は増加)	△10,432	12,452
その他	△280,150	△192,826
小計	1,526,900	257,666
利息及び配当金の受取額	762	5,814
利息の支払額	△154,549	△155,140
法人税等の支払額	△191,066	△10,165
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,182,046	98,174
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△509,542	△201,796
有形固定資産の売却による収入	—	1,100,000
無形固定資産の取得による支出	—	△8,460
投資有価証券の取得による支出	—	△3,000
投資有価証券の売却による収入	202,000	—
店舗譲受による支出	—	△1,990,093
店舗譲渡による収入	—	147,320
敷金及び保証金の回収による収入	227,469	220,121
敷金及び保証金の差入による支出	△92,265	△207,787
その他	1,030	2,955
投資活動によるキャッシュ・フロー	△171,308	△940,740
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,000,000	2,400,000
長期借入れによる収入	2,340,000	3,500,000
長期借入金の返済による支出	△1,761,656	△2,056,759
株式の発行による収入	—	2,000
リース債務の返済による支出	△1,718,160	△1,626,016
割賦債務の返済による支出	△3,721	△7,023
配当金の支払額	△182,035	△91,393
財務活動によるキャッシュ・フロー	△325,574	2,120,807
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	685,164	1,278,242
現金及び現金同等物の期首残高	1,474,107	2,159,271
現金及び現金同等物の期末残高	2,159,271	3,437,514

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称

連結子会社の数

3社

連結子会社の名称

株式会社トップブックス

株式会社グランセナフットボールクラブ

株式会社ワールスタッフサービス

(2) 主要な非連結子会社の名称

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と同じであります。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産

商品 売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) ただし、リサイクル商品は総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10年～34年

工具、器具及び備品 5年～10年

- (ロ)無形固定資産
 ソフトウェア(自社利用)
 社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法
- (ハ)リース資産
 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
- (ニ)長期前払費用
 定額法
- (3)重要な引当金の計上基準
- (イ)貸倒引当金
 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (ロ)賞与引当金
 従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (ハ)役員退職慰労引当金
 当社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。
 なお、平成17年4月に役員退職慰労金内規の改正を行い、平成16年11月以降の役員退職慰労金の新規積立を停止しております。そのため、平成16年11月以降の役員退職慰労引当金の新たな繰入れは行っておりません。
- (4)退職給付に係る会計処理の方法
 当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
 なお、平成20年4月に退職給与規程の改正を行い、当社及び連結子会社1社は退職一時金制度から確定拠出年金制度へ移行しております。本移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金に係る退職給付に係る負債を計上しております。
- (5)重要なヘッジ会計の方法
- (イ)ヘッジ会計の方法
 金利スワップを実施し、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。
- (ロ)ヘッジ手段とヘッジ対象
 (ヘッジ手段)金利スワップ
 (ヘッジ対象)借入金の利息
- (ハ)ヘッジ方針
 当社は借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。
- (ニ)ヘッジ有効性評価の方法
 金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。
- (6)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
 連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (7)その他連結財務諸表作成のための重要な事項
 消費税等の会計処理
 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(連結貸借対照表関係)

※1 債務の担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
建物及び構築物	—	—千円
土地	198,930千円	198,930千円
計	198,930千円	198,930千円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
買掛金	30,000千円	30,000千円
長期借入金	—	—千円
計	30,000千円	30,000千円

※2 国庫補助金受入

国庫補助金等受入により、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
構築物	15,615千円	15,615千円
計	15,615千円	15,615千円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
	42,372千円	33,490千円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
給料及び手当	3,183,781千円	3,205,954千円
賞与引当金繰入額	65,000千円	60,000千円
退職給付費用	30,262千円	30,738千円
減価償却費	805,740千円	654,407千円
不動産賃貸料	2,505,279千円	2,739,210千円

※3 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 工具、器具及び備品 リース資産 土地	新潟県 7 店舗 埼玉県 3 店舗 神奈川県 2 店舗 千葉県 1 店舗 東京都 3 店舗 群馬県 1 店舗

当社グループは、主に店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。当連結会計年度においては、収益性が著しく低下した以下の資産について、固定資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失2,548,490千円として特別損失に計上いたしました。

減損損失の内訳は、建物及び構築物644,579千円、工具・器具及び備品130,309千円、リース資産1,613,758千円、土地159,842千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 工具、器具及び備品 リース資産	新潟県 2 店舗 長野県 2 店舗 宮城県 1 店舗 神奈川県 1 店舗 東京都 3 店舗 埼玉県 3 店舗

当社グループは、主に店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。当連結会計年度においては、収益性が著しく低下した以下の資産について、固定資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失365,363千円として特別損失に計上いたしました。

減損損失の内訳は、建物及び構築物19,796千円、工具・器具及び備品1,256千円、リース資産344,310千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)	
	その他有価証券評価差額金			
当期発生額		32,707千円		△1,565千円
組替調整額		△1,754千円		一千円
税効果調整前		30,953千円		△1,565千円
税効果額		△9,428千円		24千円
その他有価証券評価差額金		21,525千円		△1,540千円
その他の包括利益合計		21,525千円		△1,540千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,688,000	—	—	12,688,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	603,482	—	—	603,482

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成19年第1回 ストックオプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	4,512
	平成20年第1回 ストックオプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	3,736
合計			—	—	—	—	8,249

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年12月8日 取締役会	普通株式	90,633	7.5	平成28年10月31日	平成28年12月28日
平成29年6月8日 取締役会	普通株式	90,633	7.5	平成29年4月30日	平成29年7月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年12月7日 取締役会	普通株式	利益剰余金	90,633	7.5	平成29年10月31日	平成29年12月29日

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,688,000	—	—	12,688,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	603,482	—	—	603,482

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成19年第1回 ストックオプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	4,512
	平成20年第1回 ストックオプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	3,736
合計			—	—	—	—	8,249

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年12月7日 取締役会	普通株式	90,633	7.5	平成29年10月31日	平成29年12月29日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の年度末残高と連結貸対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
現金及び預金勘定	2,169,271千円	3,447,514千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△10,000千円	△10,000千円
現金及び現金同等物	2,159,271千円	3,437,514千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

主として、店舗設備(建物及び構築物、工具、器具及び備品)であります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
1年内	1,680,028千円	1,684,394千円
1年超	13,159,240千円	13,652,163千円
合計	14,839,268千円	15,336,557千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については、設備投資計画に従って、銀行借入により調達しており、一時的な余剰資金の運用については安全性の高い金融資産で運用しております。また、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施し、支払利息の固定化を実施しております。なお、金利スワップの期末残高はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

売掛金、未収入金、敷金及び保証金は、取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式と債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

短期借入金、長期借入金及びリース債務は、運転資金及び設備投資に必要な資金調達を目的としたものであります。そのうち一部は資金調達に係る金利リスク及び流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

売掛金、未収入金、敷金及び保証金について、管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る金利リスク及び流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

資金調達時には、金利の変動動向の確認または他の金融機関との金利比較を行っております。また、各部署からの報告に基づき管理部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難であると認められるものについては(注)2のとおりであり、次表には含めておりません。

前連結会計年度(平成29年10月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	2,169,271	2,169,271	—
(2)売掛金	242,635	242,635	—
(3)未収入金	494,142	494,142	—
(4)投資有価証券	4,974	4,974	—
(5)敷金及び保証金	3,328,140	3,155,736	△172,403
資産計	6,239,164	6,066,760	△172,403
(1)買掛金	3,226,928	3,226,928	—
(2)短期借入金	1,400,000	1,400,000	—
(3)未払法人税等	81,941	81,941	—
(4)未払金	684,219	684,219	—
(5)長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む)	6,344,164	6,428,680	84,516
(6)リース債務(1年以内に返済予定のものを含む)	6,690,558	6,850,292	159,734
(7)長期未払金(1年以内に返済予定のものを含む)	250,556	244,451	△6,105
(8)長期預り敷金保証金	74,418	72,177	△2,240
負債計	18,752,785	18,988,690	235,905

当連結会計年度(平成30年10月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	3,447,514	3,447,514	—
(2)売掛金	280,559	280,559	—
(3)未収入金	220,221	220,221	—
(4)投資有価証券	3,409	3,409	—
(5)敷金及び保証金	3,433,690	3,246,044	△187,645
資産計	7,385,394	7,197,749	△187,645
(1)買掛金	3,303,600	3,303,600	—
(2)短期借入金	3,800,000	3,800,000	—
(3)未払法人税等	63,253	63,253	—
(4)未払金	540,890	540,890	—
(5)長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む)	7,787,405	7,792,493	5,088
(6)リース債務(1年以内に返済予定のものを含む)	4,546,584	4,484,519	△62,064
(7)長期未払金(1年以内に返済予定のものを含む)	89,137	85,186	△3,950
(8)長期預り敷金保証金	172,767	168,219	△4,548
負債計	20,303,638	20,238,162	△65,475

(注)1 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(資産)

(1)現金及び預金、(2)売掛金、及び(3)未収入金

すべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

投資有価証券のうち、市場性のある株式等については取引所の相場によっており、債券等は公表されている参考価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、(有価証券関係)注記をご参照ください。

(5) 敷金及び保証金

将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値によっております。

(負債)

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等及び(4) 未払金

すべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む)

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定される方法によっております。

(6) リース債務及び(7) 長期未払金(1年以内に返済予定のものを含む)

元利金の合計額を、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値によっております。

(8) 長期預り敷金保証金

将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年10月31日	平成30年10月31日
非上場株式	7,000	7,090

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	10,000	—	—	—
売掛金	242,635	—	—	—
未収入金	494,142	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	—	—	—	—
敷金及び保証金	375,030	829,106	991,917	1,132,085
合計	1,121,808	829,106	991,917	1,132,085

当連結会計年度(平成30年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	10,000	—	—	—
売掛金	280,559	—	—	—
未収入金	220,221	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	—	—	—	—
敷金及び保証金	433,827	971,025	959,464	1,069,373
合計	944,608	971,025	959,464	1,069,373

4 長期借入金、リース債務及び長期未払金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,400,000					
長期借入金	1,782,604	1,682,872	1,463,067	934,690	390,176	90,755
リース債務	1,796,586	1,314,169	716,605	305,855	257,924	2,299,416
長期未払金	121,421	84,374	35,457	7,606	1,697	—
合計	5,100,634	3,081,392	2,215,130	1,248,151	649,798	2,390,171

当連結会計年度(平成30年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	3,800,000	—	—	—	—	—
長期借入金	2,341,430	1,800,191	1,378,948	870,156	402,741	993,939
リース債務	524,611	448,171	431,495	384,390	283,606	2,474,309
長期未払金	34,031	19,508	18,792	12,884	3,920	—
合計	6,700,072	2,267,870	1,829,236	1,267,430	690,267	3,468,248

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年10月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	1,347	951	396
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	1,347	951	396
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	3,627	3,942	△315
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	3,627	3,942	△315
合計	4,974	4,893	81

当連結会計年度(平成30年10月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	1,117	951	166
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	1,117	951	166
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	2,292	3,942	△1,650
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	2,292	3,942	△1,650
合計	3,409	4,893	△1,484

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計 (千円)	売却損の合計 (千円)
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	200,213	2,122	368
合計	200,213	2,122	368

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

- 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項はありません。
- 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社1社は、平成20年4月に退職一時金制度から確定拠出年金制度へ移行しております。
なお、移行時の退職一時金は確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金に係る退職給付に係る負債を計上しております。
当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	81,497千円
退職給付の支払額	△3,930千円
退職給付に係る負債の期末残高	77,566千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	77,566千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	77,566千円
退職給付に係る負債	77,566千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	77,566千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 ー 千円

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社1社の確定拠出制度への要拠出額は、22,774千円でありました。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社1社は、平成20年4月に退職一時金制度から確定拠出年金制度へ移行しております。

なお、移行時の退職一時金は確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金に係る退職給付に係る負債を計上しております。

当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	77,566千円
退職給付の支払額	△3,893千円
退職給付に係る負債の期末残高	73,673千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	73,673千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	73,673千円

退職給付に係る負債	73,673千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	73,673千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	— 千円
----------------	------

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社1社の確定拠出制度への要拠出額は、28,341千円でありました。

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

平成18年第1回ストック・オプション	
会社名	提出会社
決議年月日	平成18年1月26日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名 (注)1
株式の種類及び付与数	普通株式 6,800株 (注)1 (注)2
付与日	平成18年1月27日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
権利行使条件	<p>①新株予約権の割当てを受けた者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>②前記①に関わらず、新株予約権者は以下のa.、b.に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>a.平成33年1月31日に至るまでに新株予約権者が権利行使日を迎えなかった場合には平成33年2月1日より行使できるものとする。</p> <p>b.当社が消滅会社となる合併契約書、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合には、当該承認日の翌日から30日間とする。</p> <p>③新株予約権の一部行使はできないものとする。</p> <p>④新株予約権者の相続人による行使は認めない。</p> <p>⑤その他細目については、本定時株主総会決議及び今後の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成18年1月27日～平成38年1月31日

(注) 1 付与対象者の区分及び人数、株式の種類及び付与数につきましては、平成30年10月31日現在の人数、株式数を記載しております。

2 株式数に換算して記載しております。

平成19年第1回ストック・オプション	
会社名	提出会社
決議年月日	平成19年1月26日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名(注)1
株式の種類及び付与数	普通株式 6,900株(注)1(注)2
付与日	平成19年2月1日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
権利行使条件	<p>①新株予約権の割当てを受けた者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>②前期①に関わらず、本新株予約権者は以下のa、bに定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>a.平成34年1月31日に至るまでに新株予約権者が権利行使日を迎えなかった場合には平成34年2月1日より行使できるものとする。</p> <p>b.当社が消滅会社となる合併契約書、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合には、当該承認日の翌日から30日間とする。</p> <p>③新株予約権の一部行使はできないものとする。</p> <p>④新株予約権者の相続人による行使は認めない。</p> <p>⑤その他細目については、平成19年1月26日定時株主総会決議及び取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成19年2月1日～平成39年1月31日

- (注) 1 付与対象者の区分及び人数、株式の種類及び付与数につきましては、平成30年10月31日現在の人数、株式数を記載しております。
- 2 株式数に換算して記載しております。

平成20年第1回新株予約権	
会社名	提出会社
決議年月日	平成20年1月25日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名(注)1
株式の種類及び付与数	普通株式 10,800株(注)1(注)2
付与日	平成20年4月10日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
権利行使条件	<p>①新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>②前期①に関わらず、本新株予約権者は以下のa、bに定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。</p> <p>a.平成35年1月31日に至るまでに新株予約権者が権利行使日を迎えなかった場合には平成35年2月1日より行使できるものとする。</p> <p>b.当社が消滅会社となる合併契約書、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合には、当該承認日の翌日から30日間とする。</p> <p>③新株予約権の一部行使はできないものとする。</p> <p>④新株予約権者の相続人による行使は認めない。</p> <p>⑤その他細目については、第23回定時株主総会決議及び取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成20年4月10日～平成40年1月31日

- (注) 1 付与対象者の区分及び人数、株式の種類及び付与数につきましては、平成30年10月31日現在の人数、株式数を記載しております。
- 2 株式数に換算して記載しております。
- 3 退職後も権利を喪失していない者を、退職時の区分に含めております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年10月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成18年1月26日	平成19年1月26日	平成20年1月25日
権利確定前			
前連結会計年度末(株)	6,800	6,900	10,800
付与(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
未確定残(株)	6,800	6,900	10,800
権利確定後			
前連結会計年度末(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
権利行使(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
未行使残(株)	—	—	—

②単価情報

決議年月日	平成18年1月26日	平成19年1月26日	平成20年1月25日
権利行使価額(円)	1	1	1
行使時平均株価(円)			
付与日における 公正な評価単価(円)	—	654	346

2 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
(繰延税金資産)		
役員退職慰労引当金	19,171千円	19,171千円
賞与引当金	19,948千円	18,276千円
未払事業税	18,135千円	12,826千円
退職給付に係る負債	23,626千円	22,440千円
未払事業所税	11,722千円	12,404千円
減損損失	972,881千円	870,118千円
減価償却費	99,662千円	107,464千円
資産除去債務	151,323千円	160,575千円
株式報酬費用	2,512千円	2,512千円
繰越欠損金	31,441千円	400,164千円
その他有価証券評価差額金	—	452千円
その他	8,596千円	8,348千円
繰延税金資産小計	1,359,022千円	1,634,756千円
評価性引当額	△883,061千円	△1,571,536千円
繰延税金資産合計	475,961千円	63,219千円
(繰延税金負債)		
建設協力金に係る割引計算額	△26,337千円	△25,097千円
その他有価証券評価差額金	△24千円	—
資産除去費用	△34,002千円	△38,122千円
繰延税金負債合計	△60,364千円	△63,219千円
繰延税金資産の純額	415,596千円	—

平成29年10月31日現在の繰延税金資産の総額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

流動資産……繰延税金資産	52,167千円
固定資産……繰延税金資産	363,428千円

平成30年10月31日現在の繰延税金資産の総額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

流動資産……繰延税金資産	一千円
固定資産……繰延税金資産	一千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
住民税均等割	△1.5%	△3.8%
評価性引当額の増減	△35.6%	△73.5%
交際費等	△0.1%	△0.3%
繰越欠損金の期限切れ	△0.4%	△1.3%
その他	△0.3%	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△7.2%	△47.9%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

主として、蔦屋書店事業における店舗の不動産賃貸借契約に関する原状回復義務等であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から賃貸借契約期間の満了日までと見積り、各債務の認識時点における合理的な割引率（0.364%～2.095%）を使用して計算しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
期首残高	485,278千円	496,792千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	7,599千円	27,512千円
時の経過による調整額	7,402千円	7,038千円
その他増減額（△は減少）	△3,487千円	△3,285千円
期末残高	496,792千円	528,058千円

(賃貸等不動産関係)

当社では、新潟県内及びその他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸商業施設を有しております。なお、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は主に、商品・サービス別の事業会社を置き、各事業会社は、取扱う商品・サービスについて包括的な事業戦略の立案並びに事業活動を展開しております。

したがって、事業会社を基礎とした商品・サービス別の事業セグメントから構成されており、「蔦屋書店事業」を報告セグメントとしております。

「蔦屋書店事業」は、書籍、CD・DVD、特撰雑貨・文具等の販売およびCD・DVD等のレンタルを取扱うチェーンストアを事業展開しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業			(注) 4	
売上高					
外部顧客に対する売上高	30,397,184	859,837	31,257,022	—	31,257,022
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	10,448	10,448	△10,448	—
計	30,397,184	870,285	31,267,470	△10,448	31,257,022
セグメント利益	224,207	11,236	235,444	72,504	307,948
セグメント資産	24,146,876	129,426	24,276,303	△62,827	24,213,476
その他の項目					
減価償却費	1,940,445	1,397	1,941,843	—	1,941,843
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,452,921	1,042	3,453,964	—	3,453,964

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業、スポーツ関連事業及び店舗設備の維持管理等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2 (注) 4	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業				
売上高					
外部顧客に対する売上高	31,482,008	775,709	32,257,717	—	32,257,717
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	9,711	9,711	△9,711	—
計	31,482,008	785,420	32,267,428	△9,711	32,257,717
セグメント利益	△1,205,862	△11,343	△1,217,206	85,065	△1,132,141
セグメント資産	24,358,271	115,451	24,473,722	△86,148	24,387,573
その他の項目					
減価償却費	1,722,325	1,250	1,723,575	—	1,723,575
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,933,192	1,527	2,934,720	—	2,934,720

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業、スポーツ関連事業及び訪問看護事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント	その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業			
減損損失	2,548,490	—	—	2,548,490

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント	その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業			
減損損失	365,363	—	—	365,363

(関連当事者情報)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等
前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (法人)	株式会社 TSUTAYA	東京都 渋谷区	10	TSUTAYA、 TSUTAYAonline、 Tカード等のプラット フォームを通じて お客様にライフスタ イルを提案する企画 会社	(被所有) 直接 16.8	レンタル CD・DVD等の フランチャイ ズ契約の締 結、備品等の 購入	店舗譲受 譲受代金	755,408	—	—
							商品譲渡 譲渡資産 譲渡対価	1,559,931 1,559,931	—	—
							店舗譲渡 譲渡資産 譲渡負債 譲渡対価 店舗譲渡益	25,022 346,290 87,320 408,589	—	—

(注) 1 取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 店舗譲受及び店舗譲渡については、双方の協議の上、決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(3) 兄弟会社等

前連結会計年度(自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (法人) の子会社	株式会社 東北 TSUTAYA (株式会社 TSUTAYA の子会社)	宮城県 仙台市	—	TSUTAYA、 TSUTAYAonline、 Tカード等のプラ ットフォームを通 じてお客様にライ フスタイルを提案 する企画会社	—	店舗譲受先	店舗譲受 譲受代金	588,131	—	—

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておりません。

2 店舗譲受については、双方の協議の上、決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
1株当たり純資産額	379円07銭	256円88銭
1株当たり当期純損失金額(△)	△203円24銭	△114円56銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たりの当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年10月31日)	当連結会計年度 (平成30年10月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,611,853	3,136,690
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,580,873	3,104,253
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	30,980	32,436
差額の主な内訳(千円)		
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	22,730	24,186
普通株式の発行済株式数(株)	12,688,000	12,688,000
普通株式の自己株式数(株)	603,482	603,482
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式数(株)	12,084,518	12,084,518

3. 1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年11月1日 至 平成29年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年11月1日 至 平成30年10月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△2,456,474	△1,384,352
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失額(△)(千円)	△2,456,474	△1,384,352
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	12,084,518	12,084,518
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用い られた普通株式増加数の主要な内訳(株)		
新株予約権(株)	—	24,446
普通株式増加数(株)	—	24,446
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の 概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

6. その他

(1) 役員の変動

①代表者の変動

該当事項はありません。

②その他の役員の変動 (平成31年1月18日付)

1. 新任取締役候補

取締役 (社外取締役) 西村 仁

2. 退任予定取締役

取締役 (社内取締役) 田村 睦博

取締役 (社外取締役) 岸本 裕之

3. 新任監査役候補

該当事項はありません。

4. 退任予定監査役

該当事項はありません。